

IEA石油市場レポートの概要（2016年1月19日公表）

（代表部仮訳のため、正確には IEA のホームページを参照）

1. 石油市場は、12月に、根強い過剰供給、膨んだ在庫、多くの否定的な経済ニュースが価格に押し下げ圧力をかけた結果、1月中旬において12年間で最も低い価格に達した。本レポート作成時点において、ブレント、WTIともに\$30/bbl以下となり、ブレントは、最終取引で\$28.86/bblを記録し、WTIは40セント高い\$29.26/bblとなった。
2. 日本、ヨーロッパ、米国における冬前半の例外的に暖かい天気と、中国、ブラジル、ロシア、その他の一次産品依存経済における弱含みの経済情勢とが相まって、世界の石油需要の増加は反転し、2015年第3四半期におけるほぼ5年ぶりの高い増加(210万b/d)から、2015年第4四半期には一年ぶりの低い増加(100万b/d)となった。2016年においては、需要の増加は120万b/dへと控えめになる見通し。
3. 世界の石油供給は、2014年の240万b/dもの大きな増加に続いて、2015年に260万b/d増加した。しかしながら、12月までに、OPEC非加盟国の生産量が2012年9月以来初めて前年の水準に戻ったことから、生産量の伸びは60万b/dに緩和した。
4. OPEC諸国の12月の原油生産は、新しく再加盟したインドネシアを含めて、9万b/d減少し、それでも高いレベルにある3228万b/dとなった。制裁解除されたイランは、即座に50万b/d増産すると主張している。我々の評価は、2016年第1四半期末までに世界市場に約30万b/dの追加的な原油が流入するというものである。
5. 世界の在庫は、2014年から2015年に、平均して10億バレル上昇したが、ファンダメンタルに基づけば、2016年に2億8500万バレルさらに積み上がることが見込まれる。2016年における顕著な設備拡大にもかかわらず、在庫増加は貯蔵設備の不足をもたらし、浮体式貯蔵の利益が出るようになるかもしれない。
6. 世界の精製設備稼働は、2015年第4四半期には平均7950万b/dとなり、先月の推計より30万b/dの減少となった。それは、(アジア大洋州以外の)その他のアジアにおける期待より少ない精製量と10月にシーズンとなったメンテナンススケジュールによるものと見込まれる。12月の世界の精製利益率は、中間留分^(注)が落ち込み、ガソリン、ナフサの根強い値動きを圧倒した結果、弱まった。

※代表部注：灯油、軽油等